

高齢者とともに学ぶ教育

—— 高齢者福祉教育活動実践モデル校としての取り組み ——

足利市立第一中学校 新井 博
坂田 昇

1 はじめに

本校では、10数年前から学区内の「独り暮らしの老人宅訪問」を実施してきた。その理由は、高齢化社会の到来でお年寄りが多くなったこと。また、同時に核家族化が進み、一人暮らしのお年寄りが増えてきたこと。とくに、一中地区は、他の地区と比べてもこの独り暮らしのお年寄りが格段に多い。出来ることなら、こういったお年寄りを元気づけたり、お年寄りからいろいろなことを学ぼうとしてこのような老人宅訪問が始められた。しかし、10数年経ち、当初の意図からかなり変化してきた。生徒の意識が『かわいそうだから、行ってやってるんだ』というようになり、お年寄りから学ぼうという意識は段々薄れてきた。このような中で、昨年度、県の教育委員会から「高齢者福祉教育推進校」に指定され、さらに、今年度「高齢者福祉教育活動実践モデル校」に指定された。そこで、これまでの活動を全面的に見直すとともに、学校をあげてこの研究に取り組むことにした。4月から、2学期までの実践活動を紹介したい。

2 研究にあたって

昨年まで福祉教育係が中心になって「老人宅訪問」を進めてきた。しかし、これでは全職員としての取り組みに欠け、教師側の意識もやや薄かった。これが生徒側の意識の低さにつながっているのではないかと考えられた。そこで、今年度から学校全体で取り組むために学校課題を次のように替え、高齢者福祉を通して生徒一人ひとりの思いやりの気持ちを育てていくことにした。

一人ひとりの生きる力を伸ばすための工夫

～思いやりの気持ちを大切に、お互いを高めて行こうとする心の指導～

この学校課題を解決する方法として次の4つの柱をおいた。

- ①教科指導の充実
- ②道徳指導の強化
- ③日常指導の徹底
- ④高齢者との触れ合い—高齢者福祉教育実践活動（学級活動）

以上、4つの柱のうち、高齢者との触れ合いを中核において研究を進めることにした。お年寄

りとの心の触れ合いを通して相手を思いやる心を育てたいと考えたからである。

これまで手探り状態で実践していたが、6月に足利市総合福祉センターの方を講師に招いて生徒、職員に講演会、学習会をもった。現在のお年寄りの置かれている状況やお年寄りが何を考えているかを聞いた。また、実践活動にはどのようなことが必要かのアドバイスを受けた。これらをもとに、職員全体での話し合いを何度か持った。そして、今年度は、各学期に一度各学年ごとに、研究授業を行い、授業を中核においた研修に努めることになった。以下がその実践である。

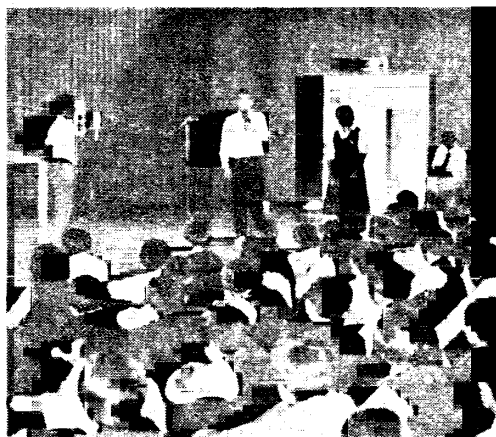
3 研究の実践

(1) 実践例1 福祉教育講演会

ア ねらい

足利市総合福祉センターの職員の講話を聞くことにより、高齢者福祉教育についての理解を深め高齢者社会の現状を知る。また、生徒にこれからの活動の目的意識及び活動意欲をもたせる。

- イ 活動場所 本校体育館
ウ 参加者 全生徒、全職員
エ 期 日 平成5年6月2日(木)
第5校時(学校行事1時間)



オ 活動内容

足利市総合福祉センターより2名の講師を招き高齢者の生活の様子、高齢者の日頃考えていること、高齢化していく社会の現状を話していただいた。また、これから行われていく諸活動における注意も受けた。合わせて、毎年行われている老人宅訪問を「友愛訪問」と呼び直すことの指導も受けた。

(2) 実践例2 現職教育(福祉教育研修会)

ア ねらい

福祉講演会の後、総合福祉センターの安藤主事から、高齢者福祉の現状と今後の課題をうかがい、これからの活動について話し合いを持つ。

- イ 活動場所 本校図書室
ウ 参加者 全職員
エ 期 日 平成5年6月2日(木) 15時~17時
オ 研修内容

講師の話聞き、高齢者福祉の現状、福祉活動の内容、介護の方法を知る。
今後の実践活動の方向性を話し合う。

(3) 実践例3 道徳 授業者 山崎 昭二 (3年担任)

ア 主題名 家族愛 (項目4-5) (項目2-2)

イ 資料名 おばあちゃん

ウ 主題設定の理由

(ア) ねらいとする指導内容

項目4-5は、「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くようにつとめる。」ことをねらいとしている。今、我々が存在するのは、父母のかけがえのない子供として、深い愛情を持って育てられたからである。しかし、中学生の時期は、生活の基が家庭から友人へと変わりつつあり、父母の言動やしつけに反抗的になったり、自分本位に振る舞ったりする傾向がみられる。

家族は血縁関係の集団である。そうした集団であるからこそ、わがままや反抗的な態度がとれるのである。しかし、ひとたび家族の誰かが病気になるってしまった時は、家族中が力を会わせ協力をしていかなければならない。特に、病人や老人の介護は、家族中が手をさしのべていかねばならない。介護の大変さや介護される側の気持ちを考えさせ、家族がお互いをいたわりあいながらあたたかみのある家庭生活をすすんで築こうとする心を育てたい。

主題は、あくまでも家族愛であるが、高齢者の介護をテーマとした資料を使い、思いやりの気持ちを育てたい。さらに、本校で行っている友愛訪問と合わせ、高齢者に対するいたわりの心を育てたい。

(イ) ねらいとする指導内容にかかわる生徒の実態

先日、友愛訪問したことをほとんどの生徒が良かったと答えている。訪問時にはあまり話はしなかったが、その時間そのものよりも相手の喜ぶ顔を見ることができてとても嬉しかったという生徒が多かったようである。ほとんどの生徒は高齢者に対してやさしくしてあげなければならないという気持ちは持っている。

この学級の生徒は、授業中は静かで、意見を持っていてもあまり活発に出さない。自分の意見はもてるのだが、それをうまく表現することができない。お互いに牽制し合い、こんな意見を言ったら笑われるのでわないかと考えてしまう生徒も多い。そこで、発表するにあたっては、作業用紙に記入させてから発表させ、できるだけ活発な意見が出るようにしたい。さらに、学力が低い生徒に対してやさしい質問も用意し活動の場を与えた。

エ 本時のねらい

(ア) 家族がお互いに協力し合い、おばあちゃんを介護していく姿を通して家族の役割や家族の心の触れ合いの大切さに気付かせる。

(イ) 高齢者にたいする温かい思いやりの気持ちを培う。

オ 展開

| 過程 | 学 習 活 動 | 発 問 に つ い て | 予 想 さ れ る 生 徒 の 反 応 | 時 間 | 指 導 上 の 留 意 点 |
|----|--|--|--|-----|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> 特別養護老人ホームのビデオを見る | <ul style="list-style-type: none"> 何でこのような施設があるのだろう | <ul style="list-style-type: none"> 家族がめんどう見ないから 家だと介護が大変だから 介護してくれる人がいないから | 5 | <ul style="list-style-type: none"> これから行く老人ホームのビデオで生徒に関心を持たせたい 寝たきり老人の介護の大切さに気づかせたい |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> 資料のあらすじをつかむ おばあちゃんの寝たきりになっ たわけ 資料をもとに話し合う ① 目尻に涙をいっばいめたおばあちゃんの気持ちを考えよう ② 部活に遅れたり、部長にしたられたときの気持ちを考えよう ビデオで「スーツ替え」を見る ③ 叔母さんがマットレスを持ってきてくれたときの私の気持ちを考える ④ 足音を忍ばせておばあちゃんの部屋から戻ったときの私の気持ちを考える | <ul style="list-style-type: none"> 何でおばあちゃんは寝たきりになっ たんだろう この時のおばあちゃんはどんな 気持ちだったろう 部活に遅れたり、部長におこら れたりしたとき私はどんな気持 ちだったろう（何で部活に遅れ たんだろう） 叔母さんがマットレスを持って きてくれたとき、私はどんな気 持ちだったか 足音を忍ばせておばあちゃんの 部屋から戻るとき私の私はど んな気持ちだったか | <ul style="list-style-type: none"> 神経痛だから 右手を骨折してしまっ たから 吉村の叔母ちゃんが来なくて寂しい 寝たきりの自分がみんなにもうしわけな い おばあちゃんの世話が 大変 部活に遅れて母でなく私まで迷惑を 被ったのだ 叔母さんは冷たい人だ 物さえ置いて行けばいいと思っ ている 叔母さんが代わってみれば私 たちの苦勞 がわかるのに 叔母さんのせいで部活の部長に しから れてしまっ た おばあちゃんを大事にしてあげよう おばあちゃんを迷惑が つてしまっ たなあ お年寄りをいたわら なくはな あ 叔母さんを悪く思っ てしまっ たなあ 家のお年寄りを大切にしよう 老人宅訪問は大変だ なあ お年寄りは迷惑な こともあるけど、みんな でいたわってあげない といけ ないなあ | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 資料のあらすじをしっかりと確認させる |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> 今までの自分の老人に対する気持ちを振り返る 教師の話聞く | <ul style="list-style-type: none"> 今までの自分の老人に対する気 持 ちを 反 り え よ う | <ul style="list-style-type: none"> 事前調査で老人宅訪問にもう、行きたくないとい う生徒4人の期間指導をする | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 老人宅訪問でお年寄りがとても喜んでいてことを話す |

(4) 実践例4 学級活動 授業者 長 竹 研 (2年担任)

ア 題材名 友愛訪問について

イ 学級の実態

友愛訪問についてのアンケート(別紙)によると、男子生徒の半数が行ってみたいくないと答えている。事前の訪問グループ単位での話し合いでも男子数名は話し合いに真剣に取り組めない様子だった。このような姿勢は、福祉の気持ちが定着していないからというわけではなく、他の学校行事を行う際にも見られる。それは、「めんどろだ」「つまらない」という無気力な面の現れであるといえる。しかし、これまで直前の準備段階や当日には意欲的に取り組める傾向にあり、友愛訪問においても成果が出せると思われる。

同居の祖父母と良く話をしたり、近所のお年寄りにあいさつしたりという面はよくできるようで、普通に毎日の生活の中での接点は持っていると言える。今回の友愛訪問の家庭のうち2軒は訪問する生徒と顔馴染みでよく話をするような関係にあり、楽しい訪問にはなりそうに思われたが、意識付けといった面では不十分のまま訪問した。

ウ 題材設定の理由

近年、長寿化、少子化現象にともなう高齢化社会において高齢者の福祉が大きな問題となっている。特に本校の学区は、高齢化が進んだ地区でお年寄りのみの家庭も多くなってきている。一方、新指導要領実施により体験学習とひとりひとりの個性が重視されるようになった。このようなことから従来から実施している友愛訪問を再検討しているが、訪問計画は各学級で行われてきたが事後指導はあまり行われていないのが現状である。そのため継続、日常化が進まないという問題点が指摘されており、友愛訪問をさらにいかすための学級活動を前後に計画した。

エ 指導計画

| | |
|----------|---------|
| 友愛訪問について | 2時間扱い |
| 友愛訪問の計画 | 1時間 |
| 友愛訪問の反省 | 2時間(本時) |

オ 本時の指導

(ア) 題 目 友愛訪問の反省

(イ) 本時のねらい

友愛訪問について自分の反省と級友の報告を聞き改善点を話し合うことで次回への意欲付けを図りたい。さらに1度の訪問に終わらず継続的な触れ合いをもとうとする気持ちや他のお年寄りとの人間関係の課題などについて毎日の生活の中で自分のできることを見つけ出させたい。

(ウ) 展 開

☆ 福祉教育上の視点 ○ 同和教育上の視点 ◎ 学級活動・新指導要領との関連

| 学習内容 | 学 習 活 動 | 時間 | 指 導 上 の 留 意 点 | 配慮生徒の指導 |
|----------------------------|---|-----|--|---|
| 1. はじめの活動 (学級長) (教師) | <ul style="list-style-type: none"> 友愛訪問へ出かける前の自分たちの気持ちをアンケート結果から振り返ってみる。(TPシート) 教師の話聞き本時の課題を知る。 | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒の司会で進める。(学級会議長) 学級長の発表を補足し本時の課題をつかませる。 | <ul style="list-style-type: none"> A男が発表するが発表するだけでなく、自分のことを振り返らせた。 |
| 2. 友愛訪問の報告 1 (グループ) | <ul style="list-style-type: none"> グループごとに訪問の様子を報告をする。 班の目標 訪問先の紹介 訪問内容・話したこと <ul style="list-style-type: none"> 聞いたこと 反省点 勉強になったこと よかったこと 感想 | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> 他の人の報告を聞き自分を振り返らせた。 作業により前もって報告をまとめ、グループで発表を分担するよう指導する。 反省点と勉強になったことについては、事前に書いたものを黒板に提示させ、次の話題の参考にさせる。 ○他の班の発表をしっかりと聞き、自分たちの発表は大きい声ではっきりとおこなうという態度を身につけさせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> B男がしっかりと発表できるように事前指導する。 B男の発表に対する周囲の反応に注意する。 |
| 3. 友愛訪問の報告 2 (JRC委員) | <ul style="list-style-type: none"> 訪問先のお年寄りからのメッセージを聞く。(VTR) | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ☆相手の気持ちに立ってもう一度、自分たちの訪問を振り返らせた。 | |
| 4. 次の友愛訪問に向けて | <ul style="list-style-type: none"> 各グループで次回の友愛訪問の目標を話し合い発表する。 | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> 本時のこれまでの活動を参考にし、もっと意義のある友愛訪問にするための目標を立てさせる。(机間指導) 【評価】 ○グループ全員が話し合いに参加できるように助言する。(机間指導) | <ul style="list-style-type: none"> B男が話し合いに参加できるように助言する。発言はできなくても友達の意見はしっかりと聞かせたい。 |
| 5. 毎日の生活のなかで自分がすべきこと | <ul style="list-style-type: none"> 教師の話聞き、毎日の生活のなかで自分ができること・すべきことを考えて目標を立てる。 | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ☆身近なお年寄りにたいする接し方やお年寄りについての考え方・ほかの周囲の人達との接し方について自分を振り返って個人的な目標を立てさせ、友愛訪問の成果を自分の生活に反映させる。 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> A男が実践すべき目標をたてられるように助言したい。 |
| 6. まとめ の活動 | <ul style="list-style-type: none"> きょうの活動について教師の話聞く。 | | <ul style="list-style-type: none"> ◎良かった点に焦点をあて次の活動につなげる | |

(5) 実践例 5 友愛訪問 (学区内の一人暮らしの高齢者宅の訪問)

ア ねらい

学区内に住む一人暮らしの高齢者宅を訪問し、楽しく歓談し高齢者とのつながりを深め、高齢者からいろいろなことを学ぶ。(70歳以上を対象)

イ 活動場所 学区内のお年寄りの家

ウ 参加者

1年生, 3年生全員, 2年生のJRC委員と学級代表
(75名) (95名) (9名)

エ 期 日

第1回平成5年6月24日(木)

第2回平成5年10月7日(木) 計70件

オ 活動内容

(ア) 事前 各町内の民生委員に町内ごとの該当者名簿の作成をお願いする。

その名簿をもとに町内生徒会を開催し各家庭に案内書を配布し、相手方の都合を聞いてくる。その返事により、町内ごとに訪問先の名簿を作成する。各クラスに訪問先を分担し、クラスごとに5~6名の班を作成して、班ごとに話す内容、家探し、お土産等を事前に準備しておく。

(イ) 事中 各班で話し合った場所に集合し、該当者宅を訪問した。

各班で事前に話し合ったことを話題にしてお年寄りと歓談し手作りケーキ等をいただきながら、昔の足利市のようす、戦争の話などを聞き時間を過ごす。

(ウ) 事後 各班で訪問した家にお礼状を出す。

付記 お礼状に対する返事を多数もらう。



カ (生徒の感想)

1学期の終わり頃学校行事「友愛訪問」でおばあさんの家におじゃましました。2年3年生が行く予定でしたが2年生が宿泊学習の後ということで私達1年生が行くことになりました。数人で班を作り、訪問のためにみんなで計画を立てました。家の場所を調べたり、話す

ことを考えたりしました。そして、いよいよ訪問する日がきました。前日に、同じ班の人達と焼いたクッキーとメッセージカードを持って、ドキドキしながらおばあさんの家を探しました。その間わたしは「どんな人だろう。やさしくて明るい人ならいいな。」といろいろ考えているうちに、おばあさんの家に着いてしまいました。私は深呼吸をして、玄関のチャイムを押しました。「ハイ、どうぞ。」と元気そうな声がしてきました。緊張しながら挨拶をして、家の中に入れてもらいました。やさしそうなので私は少し安心しました。おばあさんが楽しい話をしてくれたので私達もリラックスして話ができました。

はじめてのことなので緊張して迷惑ばかりかけてしまった私達をニコニコしながら迎えてくれました。本当に明るく生き生きしていました。これからも長生きして欲しいと思いました。また、遊びにいきたいと思っています。

キ (おばあさんからの手紙)

前略、昨日の友愛訪問を受けました者です。

毎年、訪問を頂きまして一時孫のような人々と語らいをし笑ったり、涙をこぼしたり、時間の過ぎるのも忘れる思いを過ごささせていただき有り難く思います。花束や手土産など何のお礼もできませず、別れましたが訪問以外でお暇がありましたら遊びにきて下さいと手を振り別れました。校長先生からも心やさしい生徒の皆さまに老人が喜んでいと伝えていただきたく、つたない文書ですが、お願いのみ申し上げます。これから寒さに向かいますが校長先生をはじめ、生徒一同の御発展をお願いしてお礼のみ申し上げます。

(6) 実践例 6 特別養護老人ホーム「盛雄苑」訪問

ア ねらい

施設のお年寄りの生活の様子、施設の職員の仕事等を実際見学することにより、生徒の高齢者福祉に対する理解と関心を深める。

お年寄りとの交流活動を通じてお年寄りに対する共感的理解を深める。

イ 活動場所 特別養護老人ホーム「盛雄苑」 足利市山下町2753-1

ウ 参加者 JRC委員(16名) 音楽部(10名) 父母(ママさんコーラス)

エ 期 日 平成5年7月16日(金)

オ 活動内容

・施設の見学

・お年寄りとの交歓会

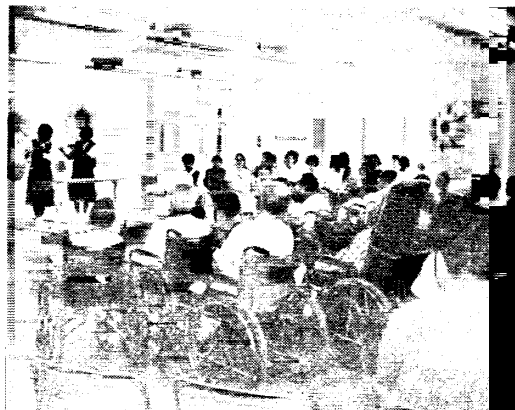
校長先生のお話 施設長さんのお話
生徒の言葉 音楽部による演奏

・ママさんコーラスによる合唱

・JRC委員による奉仕作業

男子 車椅子の清掃

女子 おむつたたみ



カ (生徒の感想)

この前、JRC委員会で老人ホームを訪問してきました。老人ホームはとても山奥の方がありました。これだけの距離を通過して毎日お年寄りに会いにくるのはとてもたいへんだと思います。老人ホームというと、みんな寝たきりのお年寄りばかりかと思っていましたが、行ってみるとみんな元気の良いお年寄りばかりでした。

始めは、ママさんコーラスの人によるとても懐かしい歌でした。僕たちの知らない歌ばかりでした。歌が終わると一人のお年寄りがアンコールと叫びました。その時、僕は本当に喜んでくれているんだなと思いました。

その後、僕たちがお年寄りとお話をする番となりました。始めのうちは、みんなとまどって話しかけようとはしませんでした。でも、だんだんうちとけてきて、お年寄りとお話を始めました。僕が話したお年寄りは、おじいさんで口が利けませんでした。僕はどうしたらよいのか分からなく、とまどっていたら、看護婦さんが紙と鉛筆を持ってきてくれおじいちゃんは話せないけれども字が書けると教えてくれました。字といっても、簡単な返事くらいな言葉だけでした。それからいろいろなことを聞いていて一番かわいそうだと思うのは、息子たちが全然会いにきてくれないことでした。僕は、おじいさんがいなかったら息子も生まれてこないのだから、もっとおじいさんを大切にするべきだと思いました。それらを含めて、家にどんな事情があってもお年寄りは、いっしょに暮らさなければならないと思います。帰る時おじいさんは、泣きながら見送ってくれました。本当に行ってよかったと思いました。また、行きたいです。



4 おわりに

これまでの実践でいくつかの成果があげられる。まず何よりも、生徒の作文にあるようにお年寄りから学ぼうという意識が現れてきた。お年寄りは、いろいろなことを知っているんだということが分かってきた。これらは、お年寄りと接する機会のない生徒には分からないものであろう。お年寄り側にしても、友愛訪問を希望する方がかなり増えたこと。訪問後大変喜んでいただき丁寧な礼状をたくさん送っていただいた。これらは、友愛訪問実施の方法をこれまで

と少し変えたからと思われる。生徒側においても、友愛訪問したお年寄り宅へその後も何回か訪問したり手紙を書いたりしている。高齢者福祉を題材にした道徳の授業を実施したり、友愛訪問の後の学級活動を実施するようになったためと思われる。これまで友愛訪問をしても訪問しただけというかたちだった。

老人ホーム訪問では、生徒や職員の視野がかなり広がった。実際に訪問しないと分からないことがたくさんある。新聞やテレビの間接視聴でしか情報をもっていない生徒には目新しいことばかりだったと思われる。これを機会に、ボランティア活動に興味を持つ生徒も出てきた。

反省点としては、友愛訪問時に訪問先の家に着くのにかなり遅れ、相手のお年寄りに注意を受けたこと。また、話す内容を考えていったはずなのに沈黙の時間が多くなってしまったこと。さらに、訪問宅によってお茶菓子が差があるということでお年寄りの家を選んでしまう生徒がいることなどがあげられる。その他の活動でもいくつか反省点が出た。これらの反省点をもとに改善できる面は改善し、なるべく良い方向を見つけ、これからも高齢者福祉教育実践活動を進めていきたい。

評

我が国の社会では、諸外国に例を見ない速さで高齢化が進んでいる。足利市においても、65歳以上の高齢者が平成6年度には15%に達し、21世紀をむかえる平成12年度には、17%以上にも及ぶであろうと予想されている。

長寿社会は、誰もが望んでいる素晴らしい社会である。その社会をより豊かなものにしていくために、未来を生きる生徒たちに高齢者の心の豊かさや生き方のすばらしさに触れさせ、福祉の心を育んでいくことは、これからの学校教育の大きな課題でもある。

第一中学校では、平成5年度に栃木県教育委員会から高齢者福祉教育実践モデル校に指定され、関係機関や地域の方々の協力を仰ぎながら「一人ひとりの生きる力を伸ばすための工夫」をテーマに教科指導、道徳指導、日常の指導、学級活動での高齢者との触れ合い等を中心に取り組んでこられた。

この研究の特徴は、これまで続けてきた「独り暮らしの高齢者の訪問」を基盤にし、それを充実、発展させていることである。また、その実践によって、高齢者と生徒の心の触れ合いが、紙面の作文や手紙から手に取るように分かる。

足利市の教育委員会では、福祉の心を育むために平成6年度から世代間交流事業の推進を図ろうとしている。この第一中学校の実践的な研究は、各学校の今後の取り組みに貴重な示唆を与えてくれたように思う。